

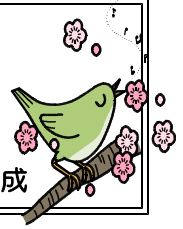


## 校長室だより

月立小学校 校長 村上克弥  
令和3年2月25日  
☎55-2260 第9号

### 教育目標

ふるさとに誇りをもち  
夢と希望に満ちた  
心豊かでたくましい児童の育成



## 「日本の伝統的な行事を大切にしたい」

1月31日に母親から『こぶの木と杉の枝を取ってきてほしい。そして明日からは2月になるので、正月が無事に過ぎたから「すぎてよるこぶ」という意味で玄関先と氏神さまに結わえてほしい』と話されました。大島の家では、このようなことを毎年行っています。では、他の場所では同じようなことはないのかと思っていると、この八瀬には「オシノグイ」という風習があることが分かりました。年越しの日にオカミの前の表に二本ナガキ(松や杉)を並べて立て、その間しめ縄を張り、さらに松と栗の木、あるいは松と杉と栗の木を結わえ付ける。門松を結わえたところには、正月15日には「さあさ、よるこぶ」という意味で笹とこぶの木に替え、2月1日には「過ぎて伝わる」と言う意味で杉と蒿の葉に替える。ということを知りました。

ところで、今年2月2日は、節分でした。1897(明治30)年以来124年ぶりに2月2日になりました。節分は本来、四季を分ける節目のこと。「立春、立夏、立秋、立冬の前日」のことをいい、年に4回あります。このうち春の始まりを表す立春の前日の節分は、豆まきをしたり、恵方(えほう)巻きを食べたりと特になじみが深いです。立春はこしばらく2月4日でしたが、今年は1日早まるため、節分も2月2日になったそうです。旧暦では春から新しい年が始まったため、立春の前日の節分(2月3日頃)は、大晦日に相当する大事な日でした。そこで、立春の前日の節分が重要視され、節分といえばこの日をさすようになったのです。

昔は、季節の分かれ目、特に年の分かれ目には邪気が入りやすいと考えられており、さまざまな邪気祓い行事が行われてきました。おなじみの豆まきも、新年を迎えるための邪気祓い行事でした。

豆まきについて私の家では、つい何年か前まで、年末のすす払いが終わった時に行っていました。「天打ち地打ち四方打ち、鬼は外、福は打ち、鬼の目玉をぶつつぶせ」と三回唱えながら天地と四方へ豆をまいていました。

大寒が過ぎ、立春になっても、本当の冬の寒さは続きます。最近は積雪もあり、大変寒い日が続いています。この時期が一年で一番寒い季節なのですが、元気に乗り越えていってほしいということから、昔の人は病気や災いを鬼に見立てた厄払いの儀式として節分を行いました。節分の日には、軒に柵の枝や鯛の頭を挿し、「鬼は外、福は内」と叫んで豆まきをしてきました。今、豆まきをする家はどれ位あるのでしょうか。昔は厳しい寒さのもとで病に倒れる人も多かったのでしょうか。春を待つ願いと健康への強い思いが感じられます。コロナ禍と重なり余計に日本の伝統的な行事を大切にしていきたいと思っているこの頃です。

月立小学校は、早稲谷鹿踊、塚沢神楽などの伝統芸能に取り組んでいます。子供たちには、「なぜ、いままで伝承されてきているのか、伝承しなければならない理由は何なのか、ここで暮らしている人たちの思いなどはどうなのか、自分たちが取り組んでいることをどのように考えるのかなど……。」多くの意味や思いをもちながら月立小学校で学んでいることを大切にしていきたいと思っています。



2 / 13 生活・総合発表会より